

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

今週の注目材料 = 米早期利上げに向け、物価と雇用への注目が続く

2021年12月20日

クリスマスウィークとなり、取引参加者が年末まで極端に少なくなります。先週は各国の中銀会合の集中週となり、年内の主要イベントも一段落した格好です。

経済指標もそれほど目立ったものはありませんが、そうした中で注目を集めそうなのが、23日に発表される11月の米PCE(個人消費支出)デフレータです。

米国のインフレターゲットの対象である同指標は、10月時点で前年比5.0%、同コア前年比4.1%と、ともにターゲットの2%を倍以上上回り、1990年以来の高水準を付ける状況となっています。

10日に発表された同系統の指標である米消費者物価指数(CPI)が、前年比6.8%まで上昇し、約40年ぶりの高水準に。同コア前年比も4.9%まで上昇しており、米国の物価上昇傾向が著しい中で、インフレターゲットの対象であるPCEも同様の上昇が見込まれます。

こうした物価の上昇傾向を受けて、先週の米連邦公開市場委員会(FOMC)では、11月から始まったテーパリング(資産購入の縮小)について、従来の月額150億ドルペースを倍の300億ドルに加速し、終了想定時期を2022年6月から3月に前倒しすることを決めました。またFOMCのメンバーによる年末時点での政策金利見通しを表すドットプロットでは、来年中3回の利上げが中央値に。前回は据え置きと1回利上げが拮抗していましたが、大きな前進です。

市場の大方の見方となっている6月からの利上げ開始となると、2回に1回のペースで、FOMCメンバーによる経済見通し(SEP: Summary of Economic Projections)が示される9月と12月に追加利上げを実施する格好となりそうです。

こうした前向き予想が今後も維持されるかどうかは、米FRBの二大命題である物価と雇用の動向にかかっています。パウエルFRB議長はFOMC後の会見で雇用について、2022年中に利上げの条件となる最大雇用と評価できる水準に達するとFOMC参加者全員が予想と発言するなど、米国の雇用状況は著しく改善中。今回のFOMCで示されたSEPでは来年第4四半期の失業率は3.5%まで低下と、9月時点の3.8%からさらに引き下げられました。

堅調な雇用状況の継続が期待される中、物価の上昇傾向が続くと、米国の早期利上げ期待を支える形となります。

今回のPCEの予想は前年比5.7%、同コア前年比は4.5%となっています。前回高インフレとなった1990年のピークはそれぞれ5.2%、4.4%ですので、事前予想通りの高水準を記録すると、その時のピークも超えてPCEデフレータは1982年以来、同コアデフレータは1988年以来の高水準となります。予想通りもしくはそれ以上の物価上昇が見られると、米国の早期利上げ期待を支える形となりそうです。

なお、PCEと同時に発表される米新規失業保険申請件数(12日~18日分)と、11月の耐久財受注(速報)も要注目で、経済指標の発表では今週最も注目度の高い時間となりそうです。

新規失業保険申請件数は今月9日に発表された11月28日から4日までの週が、18.4万件と、52年ぶりの低水準を記録しました(その後18.8万件に修正)。11月14日から20日までの週も19.4万件と20万件を割り込むなど、ここに来て歴史的な低水準が続いています。

今回の発表は基準日である12日を含む週ということで、米雇用統計の計測期間と被る重要な週だけに、動向に注目が集まります。前回5日から11日までの週は、さすがに52年ぶりの水準からは少し増えましたが、それでも20.6万件と低い水準に。今回も低めの水準を維持すると、年明け発表される12月の雇用統計への期待感につながります。

耐久財受注は、前回0.5%減(その後0.4%減に修正)と、事前予想の0.2%増に反してマイナス圏となりました。ただ、これは変動の大きい民間航空機の受注が前月比14.5%減と大きく落ち込んだことが要因。自動車受注は4.8%と伸びましたが、輸送機器全体では落ち込んでおり、輸送機器部門を除いた耐久財受注は0.5%増となっています。また、設備投資の先行指標と言われる航空機を除く非国防資本財が事前予想を超える0.6%増(その後0.7%増に修正)となったことも好感されており、全体では第4四半期の米経済成長の堅調さが期待される結果となっています。

今回は前回の反動もあって2.0%増と強い数字が見込まれています。輸送機器を除いたコアも0.6%増と好調を維持する見込み。非国防資本財受注も0.6%増としっかりとした数字が見込まれており、事前予想通りもしくはそれ以上の結果で、米国の整備投資や企業業績への期待につながりそうです。

総じて好結果が見込まれるだけに、ドル高基調の支えとなることが期待されるどころ。クリスマス前だけに、どこまで反応するのかは微妙ですが、下値を支える材料にはなりそうです。

山岡和雅 | bu PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行(旧ナショナルウェストミンスター銀行)移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後GCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ(現ミンカブ・ジ・インフォノイド)グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。(社)日本証券アナリスト協会検定会員 主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」ずばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。